



全国寄付行脚

沖縄市の上原さん来庁

5月12日(月)、今年の2月に当町の各小学校にサトウキビを贈ってくれた沖縄市在住の上原清善さん(78歳)が役場を訪れ、「横芝町の教育振興に役立ててください」と20万円を寄付してくれました。上原さんは、戦争中にフィリピンに渡り、「百五十八人いた部隊で生き残ったのは三人だけ」というせいぜい惨な体験の持主で、戦後は沖縄市内でボウリング場を営むするかたわら戦友の遺骨収集などを行い続け、60歳で一線を退いたのを機に、「人生で最も大切なものは恩返し」と将来を担う子どもたちの教育援助として、現在は全国



贈られた感謝状は2,500枚

の自治体に地元産のサトウキビや寄付金の寄付行脚を行っています。この日(12日)は、海匝地区を回り当町には午後2時半に来庁。實川町長へ現金20万円を贈りました。町長からはお礼の気持ちとして感謝状が贈られましたが、上原さんへの感謝状はすでに2,500枚にものぼり、今後も戦争のない平和な国づくりの手助けを」と3,000枚を目標に、全国自治体への寄付行脚を続けるそうです。

爽やかな風の中を

第13回ふれあいウォーク



お昼には毎回恒例のどん汁サービスが

家族ぐるみで気軽に楽しく、運動しながら体力づくりの普及を図ろうと、町教育委員会と横芝町明るい県民づくり推進員連絡協議会(大藤和一会長)の共催による第13回ふれあいウォークが、5月18日の日曜日、手賀沼周辺の約10kmのコースで実施されました。手賀沼はその昔、香取海(かきうみ)の入り江のひとつ「手賀浦」と呼ばれ、淡水魚や海水性生物の宝庫でしたが、戦後、干拓事業によって面積の約40%が水田となり、上流域での住宅開発や工業団地の建設などで魚や野鳥の数が激減してしまいました。しかし近年では、周辺市町村の協力によって浄化運動や公園整備が進められ、また近くには歴史と文化を探索するスポットも数多いことから、家族連れや子どもたちがハイキングや自然観察などを楽しむ光景が多く見られるようになりました。今回のふれあいウォーク参加者113名(役員を含む)は、午前8時20分、町文化会館から

バス3台に分乗して出発。午前10時過ぎ、東西に細長いこの沼の東端「手賀の丘公園」から北側のコースを「北柏公園」目指して歩き始めました。この日は好天に恵まれ少し歩くと汗ばむほどの陽気でしたが、湖畔を吹き抜ける爽やかな風を体にかけてながら、午前12時、昼食場所の親水公園に到着。それぞれが持ち寄ったお弁当と、毎回恒例の婦人会役員さんが作ってくれたどん汁を食べた後、午後からも水辺に咲きほこる草花や小鳥のさえずりを聴きながらみなさん心地良い汗を流しました。そして午後3時「心の洗濯」をしたみなさんは、北柏公園を後に全員無事にバスで横芝町への帰路につきました。



小鳥のさえずりを耳に楽しいハイキング